

3

聖典

タルムード

オタククのもの

あるオタク達の集会でラビは皆に意見を求めた。

「あなた方は美女と幼女、どちらを求めますか？」

「幼女！」

迷わず答える男達にラビは微笑みで頷いた。

「あなた方は素直な人です」

ある時、似たような質問を受けたオタク達は、そこでも「幼女！」と答えた。

「PTAでは場の空気を読みなさい」

ラビはオタク達をいさめた。

はじめに

ハードなアメリカビジネス界の一線から退き、数ヶ月の間ユタ州でののどかな生活を満喫していた私であるが、その気性なのか隠遁生活は長くは続けられなかった。

たまたま立ち寄った神秘の国、日本で私は偉大な人物たちと出会った。

彼らは自らのことをラビと名乗った。

(ラビとはラテン語で「rabbi」といい、指導者や学者の意味を指すという)

彼らは言った。

「ある合コンの場で、一人の男が「彼女が欲しい」と言った。

ある女は「彼氏が欲しい」と言った。

お互いのニーズが合った二人は、そのまま付き合い始めた。

ありのままの展開をOVAにしてリリースしたら、きっと大ブーイングな作品になるでしょう」

ラビの言葉は驚くばかりの叡智にあふれ、それでいてオタクたちにわかりやすい内容で語られていた。

私は多くの時間を彼ら（ラビ）の元で暮らし、その偉大な知恵の片鱗を目の前で見聞きした。

これは、彼らが語った言葉を忠実に書き記した書である。

この書が、私だけでなく、世のオタクたちの導きの光となり、問題解決の指針として役立ち、人生をより気楽に生きられる活力剤になればと切に願っている。

アメリカ カリフォルニア州にて
ファッコフ・ホワイト

経済不況が続く現在の日本において

「私は脱サラして起業する！」

と周囲に宣言することは

「私はXBOX 360が最高のゲーム機だと思っている！」

と周囲に発言するぐらいに勇気がいる行為である。

ある日、ラビが男と幼女に「晴れの日と雨の日はどちらが好きか」と質問した。

ラビの質問に幼女はこう答えた。

「晴れの日には公園で遊べて楽しいし、雨の日には水たまりではしゃげて楽しい」

ラビの質問に男は答えた。

「晴れの日にはアキバに出かけられるから嬉しいし、雨の日にはネットに引きこまれるから嬉しい」

ラビは二人を褒め称えた。

どのような答えであれ物事に良き面を見いだせる人は善き人である。

ある時、男がラビに質問した。

「人にも階級や上下関係があるのでしょうか？」

「確かに存在はするかもしれない。

しかしそれについての意味はほとんど無い。

小五の少女だからといって小三の少女より優れているという事はないし、小四の子だからといって小五より萌えるという事もない。

少し膨らんでいるのも、膨らみかけも、共に価値があり偉大なものだ。

小三、小四、小五、それぞれに各人の趣味があり需要があるということだ。

何事も単純な大小や上下だけで判断してはいけない」

ラビの例えに男は心から納得した。

ある所にオタクの男がいた。

彼はラビにこう告白した。

「実は私は三次元の女の子に興味を持ってないんです。
みんなは私のことを「普通じゃない」とか「診てもらった方がいい」とか言いますが、やはり私は精神科に行った方がいいのでしょうか？」

「いえ、あなたが行くべき場所は病院ではないでしょう」

男の言葉に対してラビは首を振った。

「あなたが行くべき場所は、アニメーター養成学校です」

主人公たちの脇を固めるサブキャラクターは時折ウザい者がいる。
そのウザさというものにもレベルがある。

メップルくらいのウザさであれば我慢もできるだろうが、木偶の坊となれば殺意すら覚える。

主人公の足を引っ張るサブキャラクターには腹が立つが、窮地に駆けつけ颯爽と助けてくれるサブキャラクターも考えものだということを、あなたは木偶の坊の行動から学ぶだろう。

とあるデパートのバーゲンセールで、婦人たちが並ぶ列に無断で割り込む男がいた。周りの人達はマナーがなっていないと非難したが男は意にも介さなかった。たまたま通りかかったラビが男にこう言った。

「あなたはメイド喫茶において、人気の娘に対して、抜け駆けで声をかけるのですか？」

ラビの問いに男は顔色を変え大きく首を振った。

「とんでもない！

みんながルールを守って大切にしているアイドルに対して、一人だけ抜け駆けして声をかけたら、みんなに申し訳ない」

「あなたが今していることも、まさに似たようなことです」

男は周囲に非礼を詫び、列の最後尾に回った。

鞭は肉体に痛く

無知は心に痛い。

3年もの永きに渡り放映されたアニメも

新番組が放映されれば二ヶ月で忘れ去られる。

ある所に親の都合で引越を繰り返して、クラスに馴染めない男の子がいた。

「僕はいつも教室の前で躊躇しちゃってます。

どうしたらもっと気楽に入室できるのでしょうか」

質問する男の子に、ラビは答えた。

「2ちゃんねるで「ぽこたんINしたお」とカキコするぐらいの気軽な気持ちで入れば、大丈夫であろう」

男の子はすぐにクラスに馴染み、人気者になった。